

県指定史跡 獅子城跡



種別	佐賀県指定史跡
所在地	唐津市厳木町岩屋・浪瀬 Google Mapで表示
指定年月日	平成3年（1991）3月30日

獅子城跡は厳木町浪瀬と岩屋に築かれた中近世の山城です。安土桃山時代に、松浦党の一統である鶴田氏がいたことが知られています。

このころの獅子城は、尾根筋を断ち切る堀切や斜面を溝状に掘り下げた竪堀などを駆使した土造りの城であったと思われます。しかし近年の発掘調査により、江戸時代初期に唐津藩初代の寺沢氏により現在の石垣に囲まれた城に造りかえられたことが明らかになりました。

獅子城跡には、標高228mの山頂部にある本丸をはじめ、井戸曲輪、一の曲輪、二の曲輪、三の丸、出丸と呼ばれる平坦部が広がっています。

発掘調査では、基礎となる礎石列が残る建物跡を本丸・三の丸・出丸で検出しました。また、虎口と呼ばれる石垣の出入り口も新たに確認しました。これらの虎口を構成する石垣は廃城時に破却され、二度と使われないよう徹底的に破壊されています。

当時の状況や遺物の出土状況から考えると、数回の石垣改修を経て、遅くとも1630年～1640年ころには破却されたようです。

江戸幕府が開かれて（1603年）から大坂夏の陣（1615年）で豊臣氏が滅亡するまでの数十年間は、いつ次の戦いが起こるか分からず、全国の大名は戦いに備え、城の防御を固めました。佐賀地方の国境に近い厳木一帯ではその必要性が高かったようです。程なく獅子城は廃城となってしまいますが、獅子城跡には現在でも江戸時代初期に築かれた石垣が良好に残り、当時の様子を今に伝えています。

問い合わせ

生涯学習文化財課

〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号

大手口センタービル6階

電話番号：0955-72-9171